

令和6年度第6回教育委員会(9月25日開催)
 ①諸般報告
 ※第7回教育委員会(10月28日開催)については次号でお知らせします。教育委員会はどなたでも傍聴できますので、教育委員会事務局までお気軽にお問い合わせください。(☎077-0706)

～郷土史つづり～

文責
 郷土史マスター
 川内 つづり



その89「タンニン工場(早来)についての深掘り ①桜組」…続き

さて、タンニンエキスの原料を求めて桜組は動き出します。当時の状況は、カシワの木の皮に、タンニンが多く含有されることが発見され、明治15年頃まで山陰地方のカシワの木が使われたのですが、木は切り尽くされ、その後関東地方の八王子、秩父、栃木県の北部から産出されました。しかし、内地の山々を切り尽くし、タンニン剤の価格も上がり、明治25年頃から、北海道にカシワの木を求めようになりました。

桜組(現ニッピ)から頂いた資料の文中には「元来^{しじゅうせいかく}渋鞣製革において、タンニン剤は原皮について重要な副原料である。これらタンニン剤の給源は製革を支配するといつてよい。」と書かれています。タンニン剤(渋)とは原皮を革に加工し易いように柔らかくし、また腐らないように防腐剤の役割をするもので、それを渋鞣し、またはタンニン鞣しと言います。タンニン剤を確保する事が、製革にはたいへん重要だということです。当初、カシワの木の皮を、北海道から輸送していましたが、コストと日にちがかかりました。そこで明治36年、手付かずのカシワの森がある、鉄道駅のある早来にタンニン工場を建設しました。アメリカの機械と技術を導入し、日本最大級のタンニン工場となりました。それによって、これまで輸入の革で利益が出ない苦労を経験した西村勝三が目指した、製革の国産化が実現したのです。

明治38年、株式会社桜組になり、当時最大の皮革産業会社となりました。明治40年には、桜組、大倉組皮革製作所、東京製皮会社、今宮製革場の4社が合併し日本皮革株式会社を渋沢栄一が相談役となって設立されました。明治38年では毎月375トンの原料から75トン(原料の20%)のタンニンエキスが製造されました。しかし明治44年、工場が出来てわずか8年で早来のカシワの木は切り尽くされました。早来のタンニン工場は閉鎖され、工場と従業員は十勝の池田町へ移転されるのでした。

今回は、あまり知る機会のない原皮についてです。身近にある革製品の製造工程に触れていきたいと思います。

安平町図書室 新着図書のご案内

□開室日 追分 火～日曜日 9時～17時
 まなびお 月～日曜日 9時～21時
 □問合せ まなびお ☎07775、追分 ☎02565

新しい本がたくさん入りました！まなびお・追分どちらの図書室の本でも借りることができます。ぜひ図書室へお越しください。リクエストもお待ちしています。

まなびお図書室

- 〈一般書〉米粉のつくりおきおやつ 卵・小麦粉・乳製品を使わない(今井 ようこ)／一生役立つきちんとわかる解剖学(橋本 尚詞)／京都ものがたりの道(彬子女王)／わたしの知る花(町田 そのこ)／難問の多い料理店(結城 真一郎)
- 〈児童書〉人間は料理をする生きものだ(森枝 卓士)／超ビジュアル！日本の城大(矢部 健太郎)／うごきません。(大塚 健太)／つきをなくしたクマくん(谷口 智則)／おとな体験授業？(なかがわ ちひろ)

追分公民館

- 〈一般書〉高校生からわかる日本経済 なぜ日本はどんどん貧しくなるの？(金子 勝)／テヘランのすてきな女(金井 真紀)／1日10秒マインドフルネス(藤井 英雄)／バタン島漂流記(西條 奈加)／義父母の介護(村井 理子)
- 〈児童書〉リーゼ・マイトナー 核分裂を発見した女性科学者(マリッサ・モス)／ドラえもん学びワールド special わくわく科学実験(藤子・F・不二雄)／命を守る防災ふろしき(よこやま よしえ)／おばけのマールとひみつのこうえん(なかい れい)／イリエワニ(福田 雄介)

今月の展示テーマ

『この一行に 逢いにきた』

10月27日からは読書週間。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、戦後まもない1947年に出版社、書店、公共図書館、マスコミも加わって、第1回読書週間が開催されました。今月は図書室(館)の本の分類を紹介しながら、おすすめの本を一般書から児童書までご紹介したいと思います。テーマは今年の読書週間の標語です。

◆ 読み聞かせ 11 月 日 程 ◆	日時	会場
読み聞かせ ありんこ会	11月16日(土)10時30分～	まなびお図書室(早来学園図書室)
ブックスタート読み聞かせボランティア赤ずきん	11月27日(水)11時～	おいわけ子ども園子育て支援センター